

21 被服の機能に関する研究 (第3報)

—shirt collar のゆるみ分量について—

昭和女子大 石毛ふみ子

鈴木キミ子

1 第1報, 第2報に於いて blouse の胸囲, 背幅, 胸幅, 袖ぐりのゆるみ分量及び blouse の丈についての実験結果を報告した。今回は shirt collar のゆるみ分量について外観, 機能の両面から考察した。

2 被測者 50 名につき (女子学生) 頸囲 3 ヲ所, 頸長 2 ヲ所について, 直立正常姿勢時及び前後屈, 左右倒し, 左右廻しの各運動時に於ける必要寸法の計測を行い頸部の機能的に必要なゆるみ分量を求め, それに基づい

て shirt collar を製作した。実験布にはローン(薄地), ブロード(中程度地), 化繊ジャージ(厚地)を用い, 地質の厚薄によるゆるみ分量の差異を検討した。被着用者をやせ型, 標準型, 肥満型の三体型とし, 同体型をもつもの各々3名, 計9名につき計測時と同様な運動を行って着用実験をなし, 外観, 機能の両面から shirt collar に於ける必要ゆるみ分量を検討した。

3 直立正常姿勢時に対する頸部の各運動に伴う必要運動量は, 計測の結果, 頸囲最大3.4 cm, 最少-0.9cm 頸長最大4.4 cm, 最少零 cm となった。着用実験の結果 shirt collar に於いては, 1.5 cm 内外のゆるみ分量を必要とし, 地質の厚薄によって 0.5 cm 内外のゆるみ差を必要とするのではないかという結果を得たので報告する。